

# 2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

2025年11月18日

## 1. 2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

## 2. 2026年3月期 通期業績予想

## 3. 各事業の概況

## Appendix

注) 本資料には、本資料作成日時点で入手可能な将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。  
世界経済の動向・市場需要・競合状況・為替の変動等にかかわる様々なリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性がありますことをご承知おさください。  
尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数は切捨て、増減率は小数点以下第2位を四捨五入し小数第1位まで記載しております。  
また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「－」表記しております。

# 1. 2026年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

- 1) 決算概要
- 2) 売上高・利益の推移
- 3) 事業別売上高の増減
- 4) EBITDA・営業利益の増減 【売上高・費用内訳】
- 5) キャッシュ・フロー
- 6) 配当金

# 1) 決算概要

2026年3月期 第2四半期決算のポイント

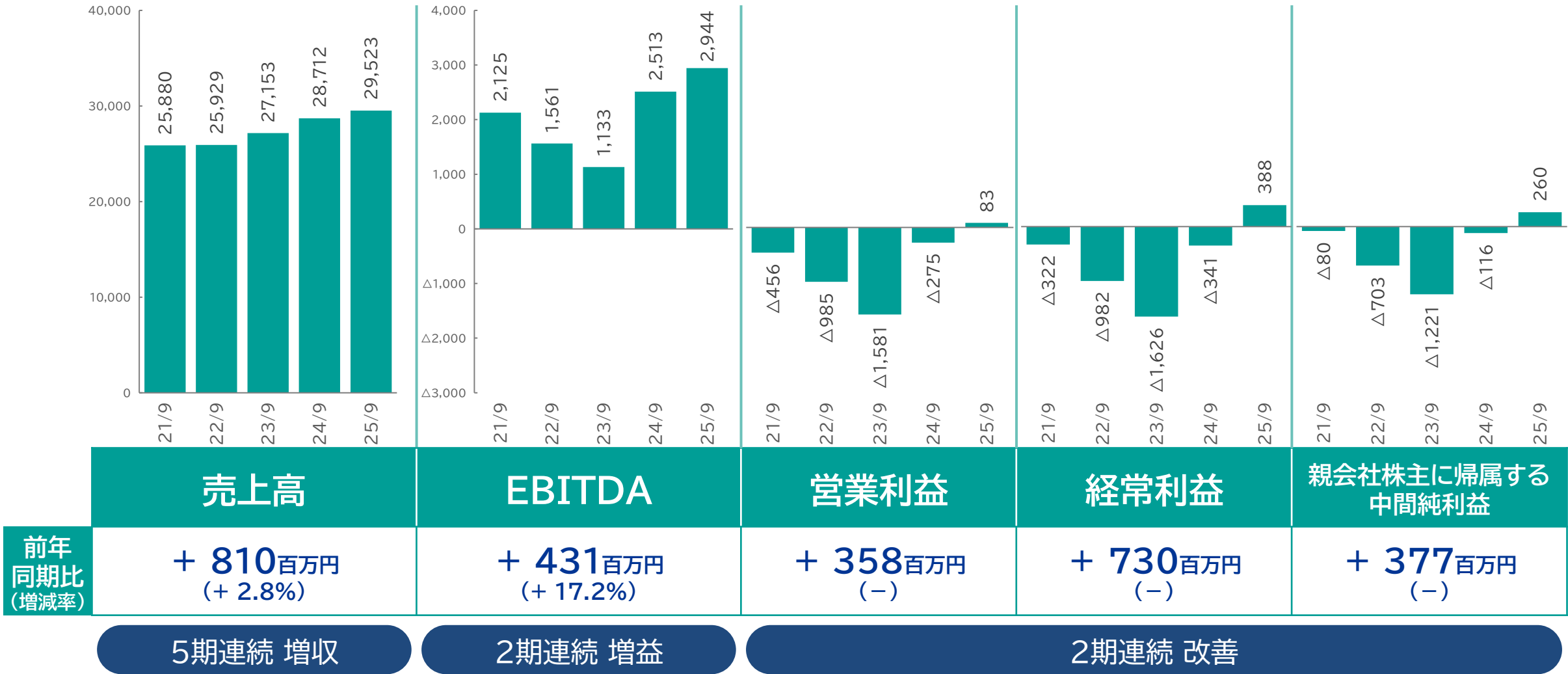
売上高は5期連続増収、EBITDAは2期連続増益、営業利益は2期連続改善し2Qでは7期ぶりに黒字化

- 売上高は、モビリティソリューション事業で前期1Qに計上した一過性売上の反動減や、カーナビゲーション用データの販売が減少したものの、公共ソリューション事業で住宅地図データの提供(一部前倒し含む)や受託案件が増加したほか、GISパッケージなどのストック型サービスが堅調に推移し増収。
- 損益面では、人件費の増加はあるものの、増収や売上構成変化により吸収し、EBITDAは前年同期比で増益、営業利益も改善。
- 受取配当金や為替影響により経常利益は増益となるも、中間純利益は前期1Qに計上した(株)Will Smart上場に伴う子会社株式売却益の反動などで増益幅は縮小。

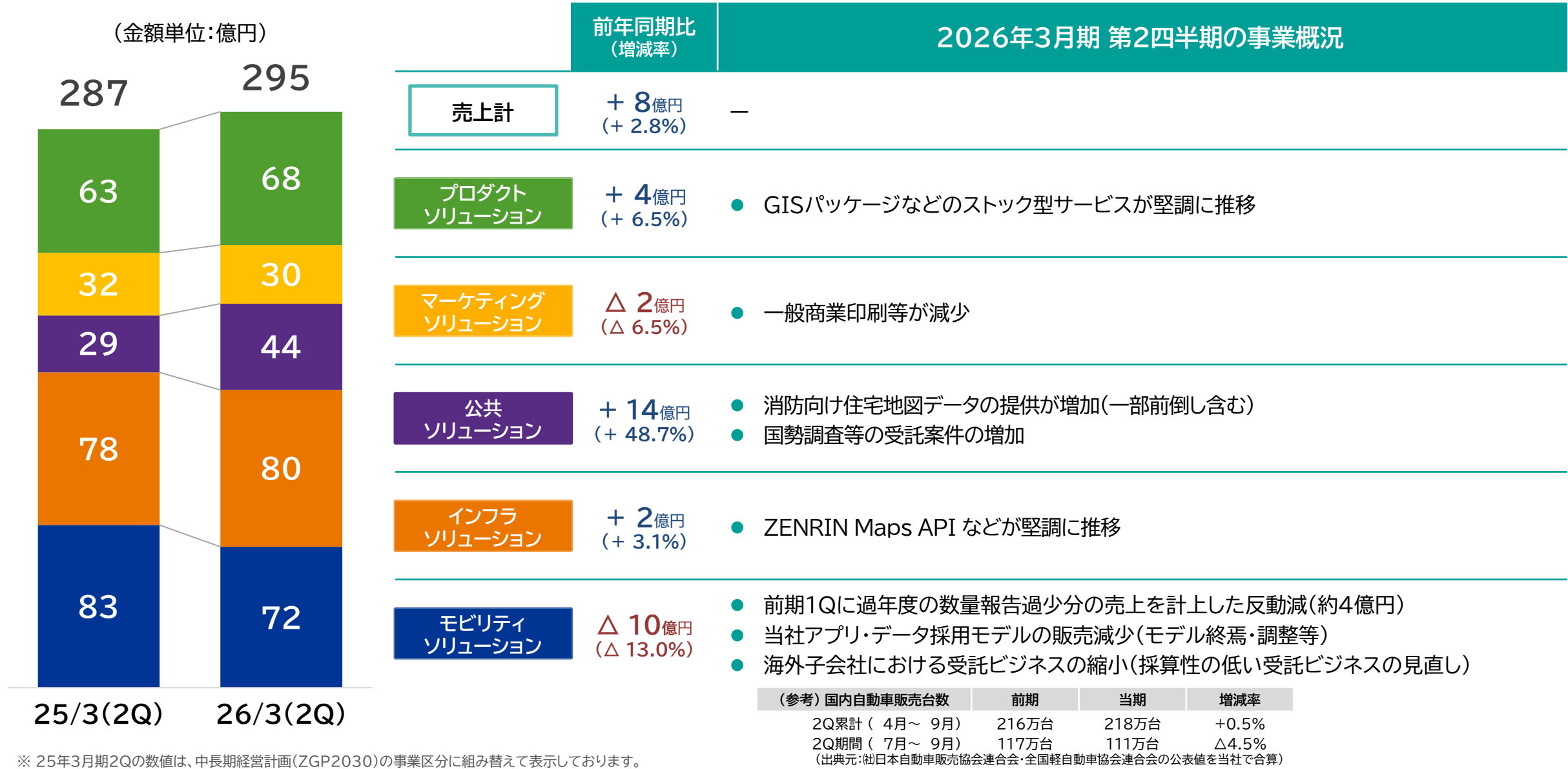
| (金額単位:百万円)             | ① 前年同期実績<br>(2025年3月期2Q) | ② 当期実績<br>(2026年3月期2Q) | 前年同期比(②-①)       |              |
|------------------------|--------------------------|------------------------|------------------|--------------|
|                        |                          |                        |                  | 増減率          |
| 売上高                    | 28,712                   | 29,523                 | + 810            | + 2.8%       |
| 営業費用                   | 28,988                   | 29,440                 | + 451            | + 1.6%       |
| EBITDA<br>(EBITDAマージン) | 2,513<br>8.8%            | 2,944<br>10.0%         | + 431<br>+ 1.2pt | + 17.2%<br>- |
| 営業利益<br>(営業利益率)        | △ 275<br>△ 1.0%          | 83<br>0.3%             | + 358<br>+ 1.3pt | -<br>-       |
| 経常利益                   | △ 341                    | 388                    | + 730            | -            |
| 親会社株主に帰属する<br>中間純利益    | △ 116                    | 260                    | + 377            | -            |
| ROE<br>(自己資本当期純利益率)    | △ 0.2%                   | 0.5%                   | + 0.7pt          | -            |

## 2) 売上高・利益の推移

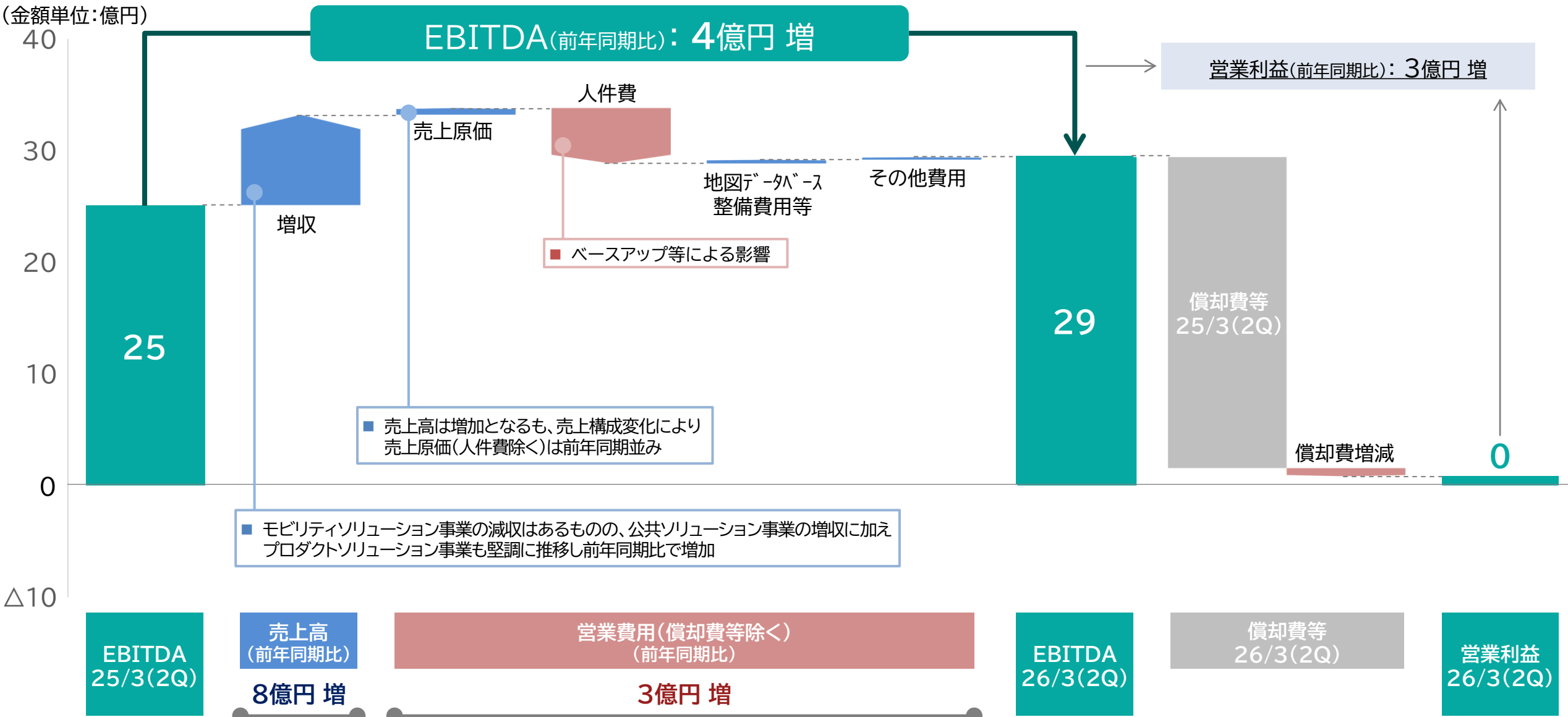
(金額単位:百万円)



### 3) 事業別売上高の増減

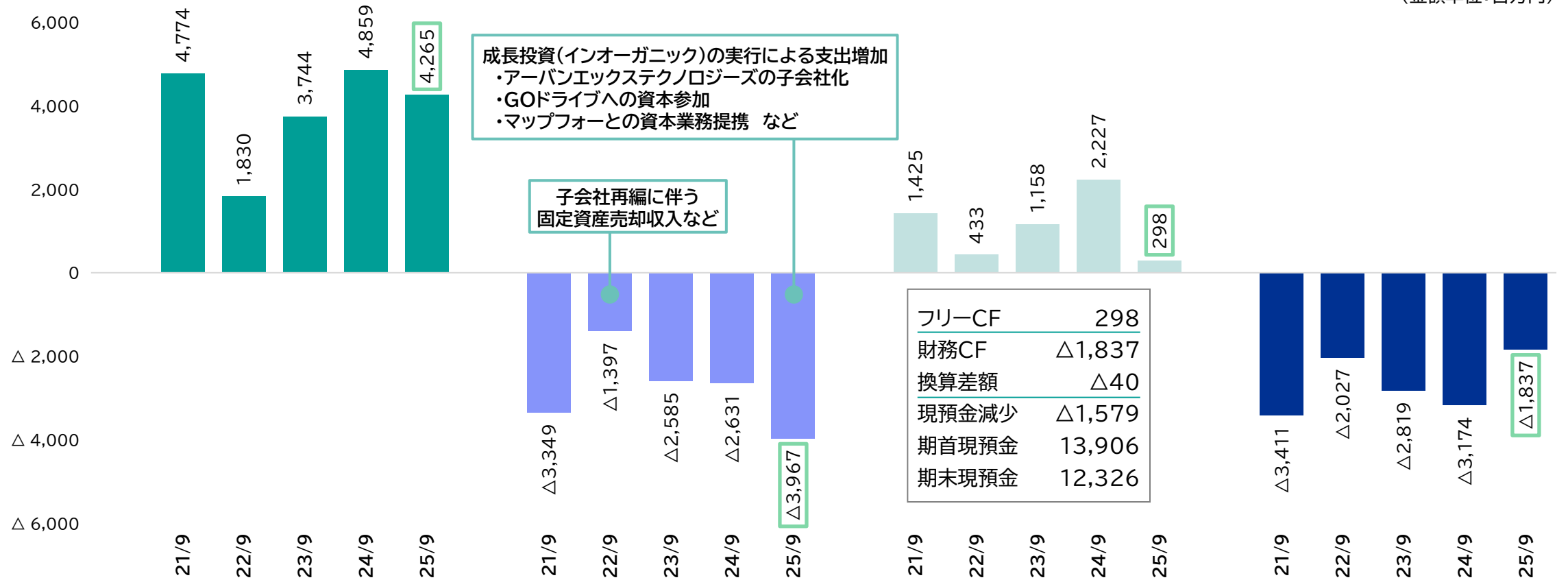


# 4) EBITDA・営業利益の増減【売上高・費用内訳】



## 5) キャッシュ・フロー

(金額単位:百万円)



|          | 営業CF       | 投資CF         | フリーCF        | 財務CF         |
|----------|------------|--------------|--------------|--------------|
| 26/3(2Q) | 4,265百万円収入 | 3,967百万円支出   | 298百万円収入     | 1,837百万円支出   |
| 前年同期比    | 593百万円 収入減 | 1,335百万円 支出増 | 1,929百万円 収入減 | 1,337百万円 支出減 |

## 6) 配当金

### 利益還元の 基本方針

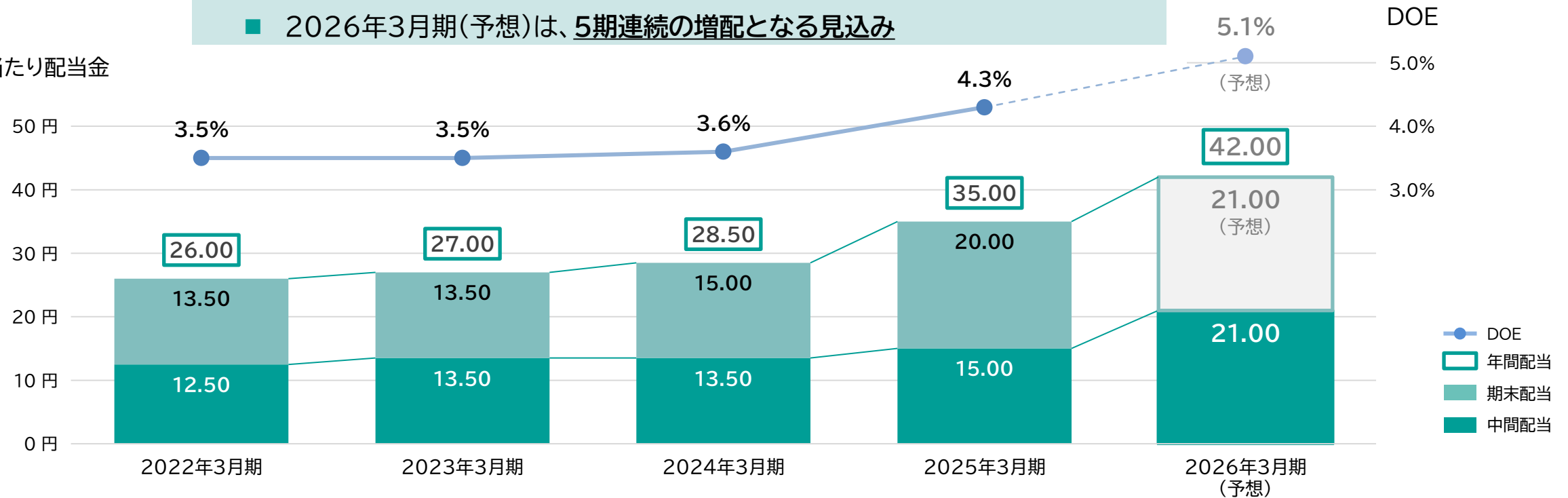
中長期経営計画における利益成長に基づき  
安定的・継続的な配当の実施に加え、機動的な自己株式の取得を実施

### 配当

<2026年3月期> 中間 21円、期末 21円(予想)、年間 42円(予想) / DOE 5.1%(予想)  
(前期比+7円) (前期比+0.8pt)

- 1994年9月の福証上場以来、普通配当の減配なし
- 2026年3月期以降、DOE目標を従来の3%以上から5%以上に引き上げ
- 2026年3月期(予想)は、5期連続の増配となる見込み

1株当たり配当金



## 2. 2026年3月期 通期業績予想

### 【 期首業績予想から変更なし 】

- モビリティソリューション事業における前期一過性売上の反動減などによる減収はあるものの、GISパッケージなどストック型サービスやソリューション売上の拡大により、全体としては増収を見込む
- ベースアップの影響などによる人件費の増加はあるものの、増収などによりカバーし増益を見込む

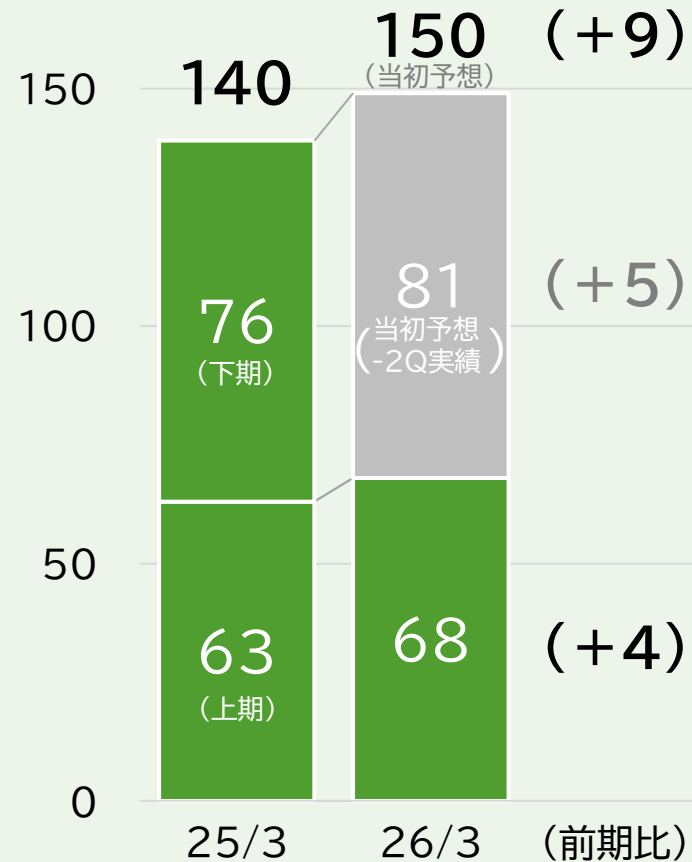
| (金額単位:百万円)             | ① 前期実績<br>(2025年3月期) | ② 当期業績予想<br>(2026年3月期) | 前期比(②-①)         |             |
|------------------------|----------------------|------------------------|------------------|-------------|
|                        |                      |                        |                  | 増減率         |
| 売上高                    | 64,363               | 65,500                 | + 1,136          | + 1.8%      |
| 営業費用                   | 60,440               | 61,200                 | + 759            | + 1.3%      |
| EBITDA<br>(EBITDAマージン) | 9,578<br>14.9%       | 10,000<br>15.3%        | + 421<br>+ 0.4pt | + 4.4%<br>- |
| 営業利益<br>(営業利益率)        | 3,923<br>6.1%        | 4,300<br>6.6%          | + 376<br>+ 0.5pt | + 9.6%<br>- |
| 経常利益                   | 3,936                | 4,400                  | + 463            | + 11.8%     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益    | 2,606                | 3,000                  | + 393            | + 15.1%     |
| ROE<br>(自己資本当期純利益率)    | 5.3%                 | 6.0%                   | + 0.7pt          | -           |

### 3. 各事業の概況

- 1) プロダクトソリューション事業
- 2) マーケティングソリューション事業
- 3) 公共ソリューション事業
- 4) インフラソリューション事業
- 5) モビリティソリューション事業

# 1) プロダクトソリューション事業

200 (金額単位:億円)



※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

## 上期概況

- スtock商材のGISパッケージは順調に推移  
GISパッケージ：26/3(中間) 26億円 【参考】25/3(中間) 24億円、25/3(期末) 50億円
- フロー商材では、住宅地図帳などの減少傾向は続くも、受託案件でカバーし、フロー全体で前年同水準
- 価格改定効果は前期までで概ね一巡

## 下期予想と取り組み

- GISパッケージのラインナップ拡充
  - ✓ 「GISパッケージ」シリーズに「登記所備付地図」を追加し、地番提供エリアを拡大(10月リリース)
  - ✓ コンテンツ拡充に加え、機能面における用途開発により、業務効率化を支援
- セレクション商材の開発継続

## ZGP2030

新規サービス(セレクション)の市場投入と 既存サービス(パッケージ)の幅広いラインナップでさらなるストックビジネスの拡大

## 2) マーケティングソリューション事業

200 (金額単位:億円)

150

100

50

0

66

67

(+0)

(当初予想)

34

(下期)

36

(当初予想  
-2Q実績)

(+2)

32

(上期)

30

(Δ2)

25/3

26/3

(前期比)

### 上期概況

- ・ クライアントの販促費削減などの影響により、一般商業印刷やDM発送受託が減少
- ・ 多店舗を展開する企業向けのマーケティング支援パッケージ「ARMBOX」や中小個店向けのエリア分析やポスティングまでを支援する「らくらく販促マップ セレクションサービス」などは前期並みで推移

### 下期予想と取り組み

- ・ 一般商業印刷は大型案件減少の影響により減収想定
- ・ 上期リリースの折込事業者向けの新サービス「ORICOMIBOX」を拡販
- ・ 「ARMBOX」や「らくらく販促マップ セレクションサービス」などの販売支援ソリューションを強化し、フロービジネスからストックビジネスへのシフトを狙う

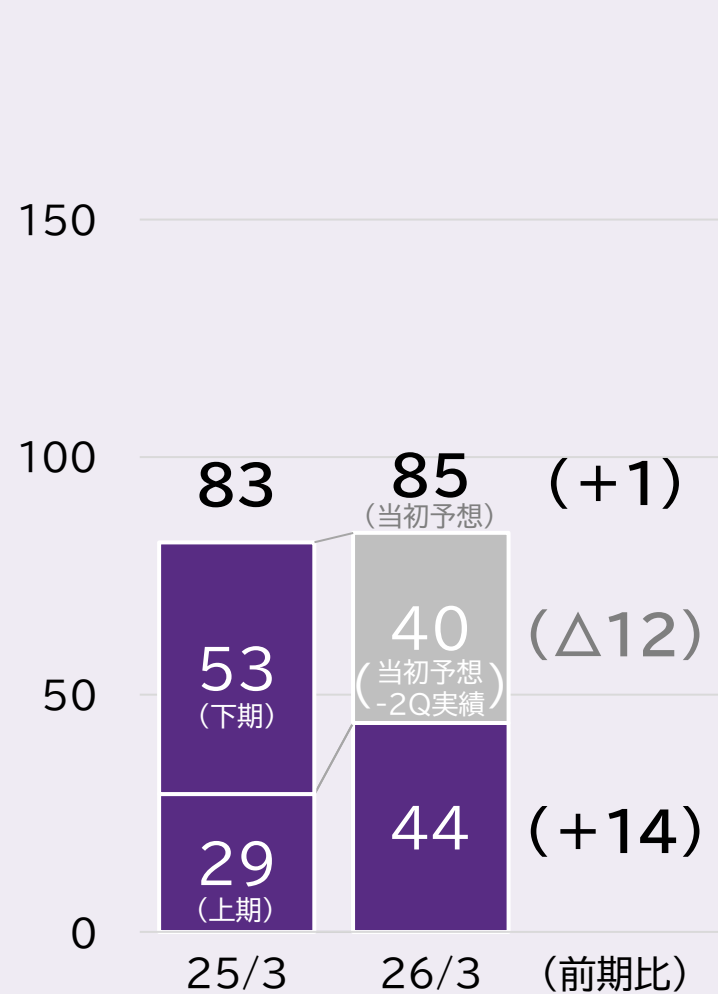
### ZGP2030

個々のマーケティング課題に最適化したサービスで  
個店から企業まで幅広い顧客を獲得

※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

### 3) 公共ソリューション事業

200 (金額単位:億円)



※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

#### 上期概況

- 各消防等の通信指令システムのリプレイスにより、システムベンダー・SIerを通じた住宅地図データの提供が大幅に増加(一部前倒し含む)
- 国勢調査の実施に伴い、各自治体からの要図や調査員用地図などの受託案件により前年同期比で大幅に増加(前期下期にも一部計上)

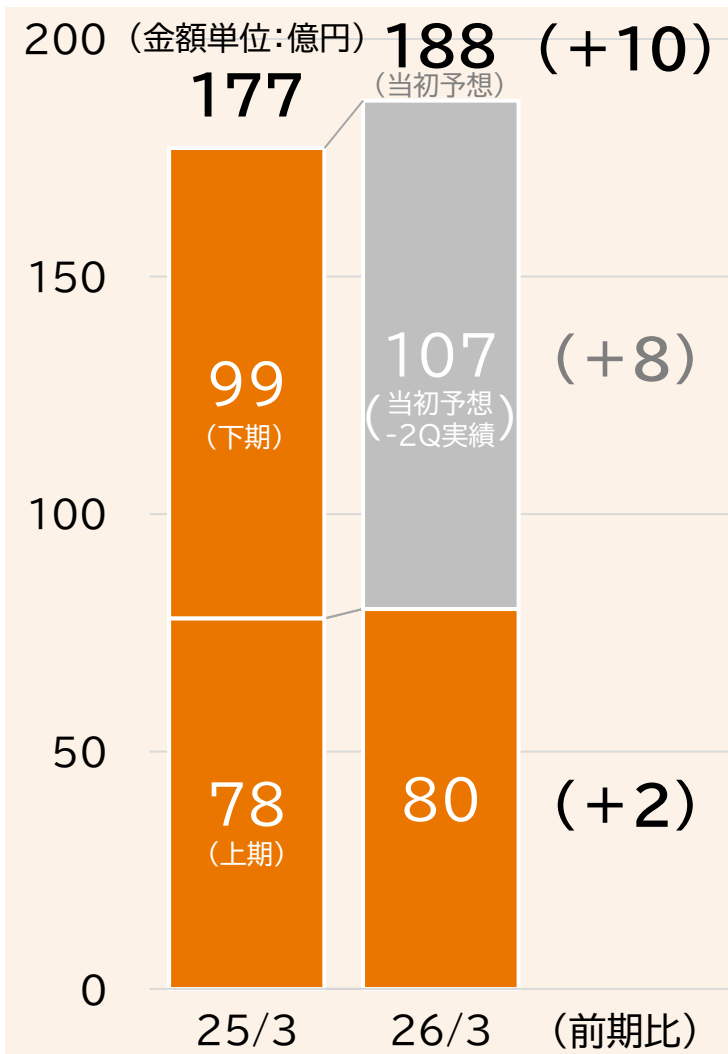
#### 下期予想と取り組み

- 上期の進捗から、通期は当初予想よりも順調に推移
- 新規連結子会社アーバンエックステクノロジーズ社の商材「Road Manager※」の拡販  
※ Road Manager : AIを活用した道路損傷検知サービス
- 交通空白対策の実証モデルを踏まえ、スマートシティソリューションとしてエリア展開
- 空き家、防災など自治体の共通課題解決を支援するセクション商材の開発継続

#### ZGP2030

省庁・地域の課題を解決するソリューションビジネスの強化・標準化と新規サービス(セクション)の市場投入でストックビジネスを本格化

## 4) インフラソリューション事業



※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

### 上期概況

- 既存の地図配信サービスからの切り替えを含め、ZENRIN Maps API ※が堅調に推移  
(※ 地図コンテンツや機能群を顧客の業務システムに実装可能)
- 「不動産情報プラットフォーム」構築を目指し、大手不動産企業の業務DXを支援するソリューション※を提供  
(※ 位置情報と連携する各種データの一元管理、地図上での可視化。次頁の事例紹介参照)

### 下期予想と取り組み

- ZENRIN Maps API の採用拡大
- 「不動産情報プラットフォーム」構築に向けた検証
  - ✓ 既存顧客のソリューション領域拡大 (大手不動産各企業へのDX提案、検証実施)
  - ✓ AI活用による業務効率化検証実施
- 新規顧客開拓 (生活インフラ業界)
  - ✓ AI技術を活用し、インフラ老朽化・点検人員不足等を解決するDX提案

### ZGP2030

物流・不動産分野など、産業インフラを担う大手企業との共創により  
ソリューションビジネスを拡大

## 4) インフラソリューション事業：共創による業界DX支援(不動産業界事例)

### 【不動産業界向けの業務DX支援】

#### 業界共通課題

- ・ 用地・物件情報の分散 
- ・ 業務非効率（手作業など） 
- ・ 外部データの活用不足 

#### ゼンリンの企業共創

ゼンリンアセット・顧客アセットとの  
外部連携による新たな価値創造

- ・ 当社 × 顧客 × 外部のデータ連携
- ・ API/クラウドでの一元管理・可視化
- ・ 柔軟なWebアプリ構築 

#### 企業共創の効果

業務の可視化・効率化により  
経営判断や事業推進の迅速化を支援

- ・ 用地・物件・市場データの一元管理 
- ・ データ分析・業務フローの自動化
- ・ 市場予測・物件評価の精度向上 

【取り組み事例(一例)】



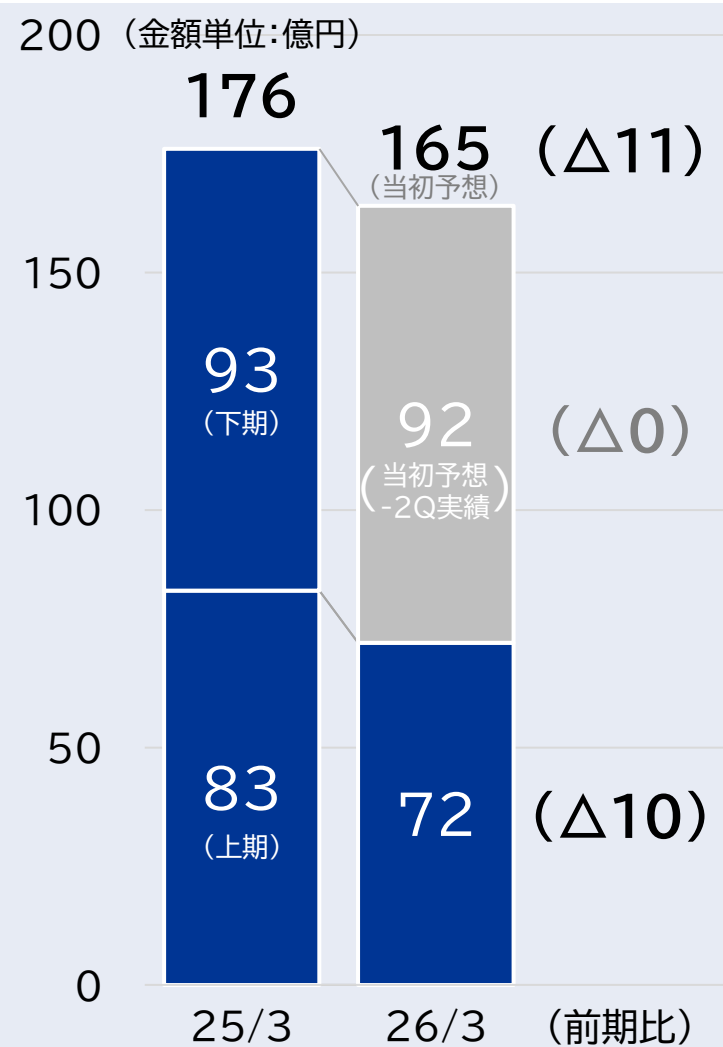
様々なデータを地図上に重畳、不動産市場分析や開発データ収集を高度化

(左記は一例であり、今後も大手各社、多業界、新領域での共創活動を推進)

不動産業務に必要な各種情報の提供とシステム連携により業務プロセスを効率化

ZGP2030で掲げる業界別ソリューションとして  
「不動産情報プラットフォーム」構築を具現化

## 5) モビリティソリューション事業



※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

### 上期概況

- 前期1Qに計上した過年度の数量報告過少分の反動減(約4億円)
- 国内自動車販売台数は前年同期微増となるも、当社アプリ・データ採用モデルはモデル終焉や調整等もあり減少
- 海外子会社における受託ビジネスの縮小(採算性の低い受託ビジネスの見直し)

### 下期予想と取り組み

- 前期1Qの一過性売上による反動減や、海外子会社の受託ビジネス縮小の影響は通期予想に織り込み済み
- 国内自動車販売及び生産動向に注視しつつ、シェア維持・拡大のため次期モデルの獲得に注力
- 自動運転技術の新たな動向を踏まえ、地理空間情報を活用したソリューション開発を強化

### ZGP2030

既存ナビビジネスのシェア拡大と、EV/AD/ADAS等  
次世代自動車サービスのソリューションパートナーとして高度なモビリティ社会を支援

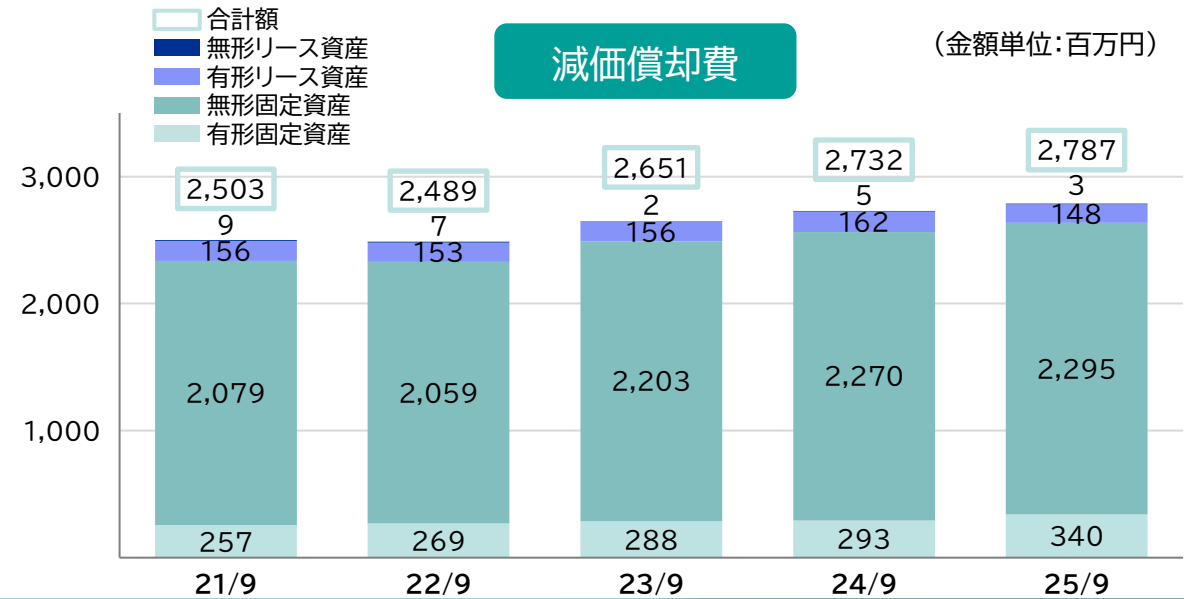
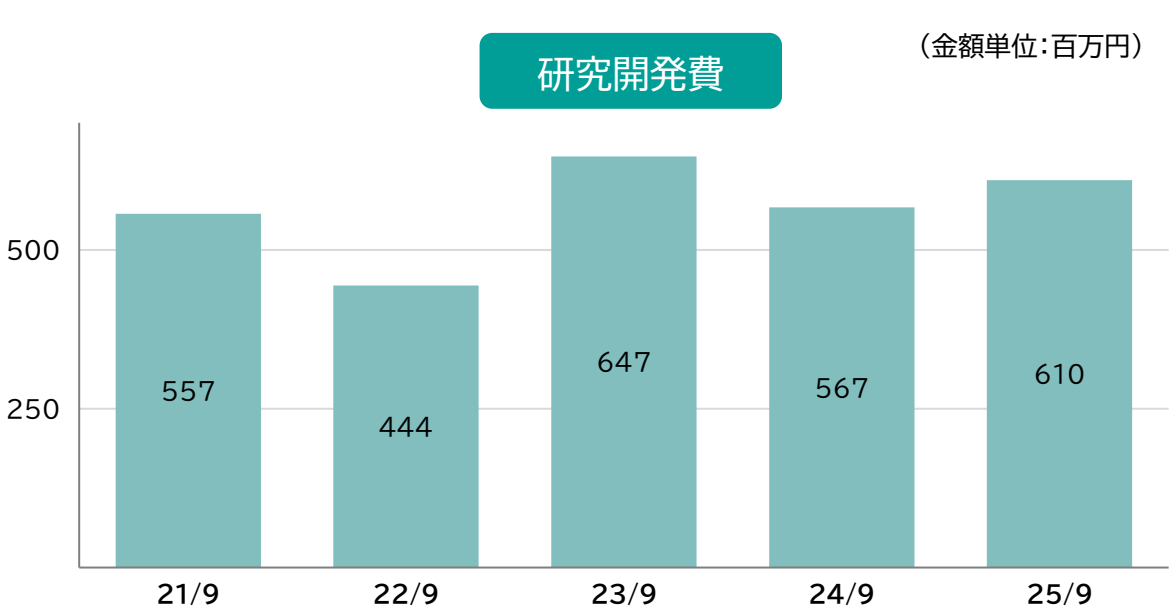
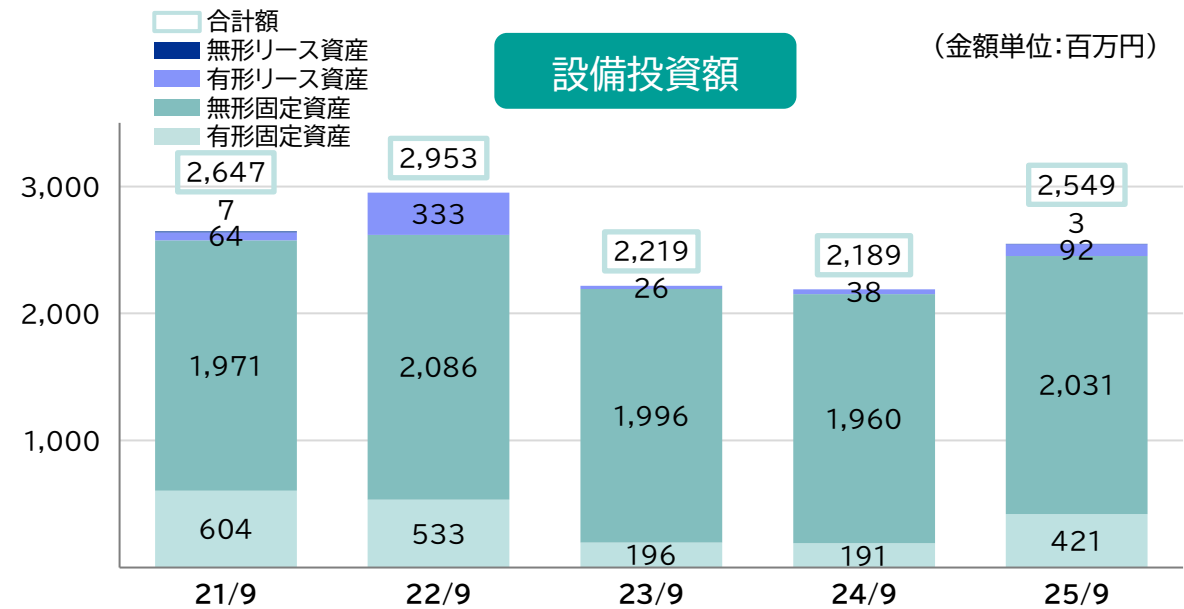
## 2026年3月期 第2四半期(中間期)

設備投資額・減価償却費・研究開発費

## 2026年3月期 通期業績予想

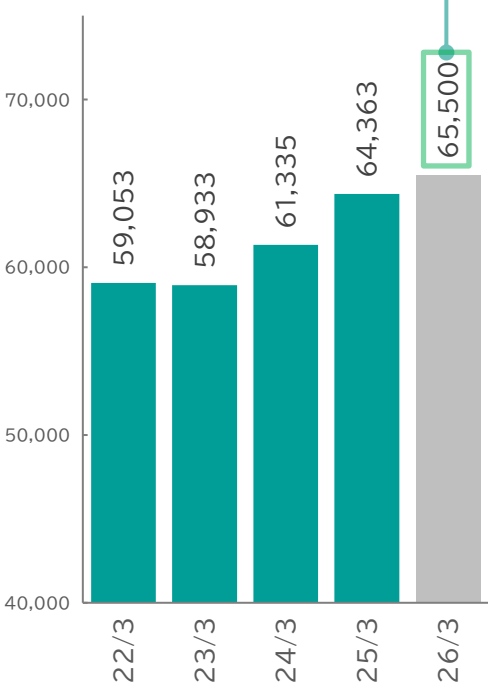
- 1) 売上高・利益の推移
- 2) 事業別売上高の増減
- 3) EBITDA・営業利益の増減 【売上高・費用内訳】
- 4) 事業別売上高の四半期別推移
- 5) 四半期売上高構成比率の推移
- 6) 設備投資額・減価償却費・研究開発費

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

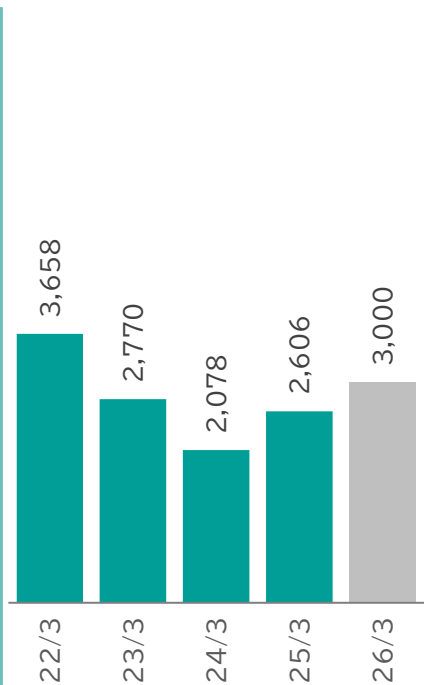
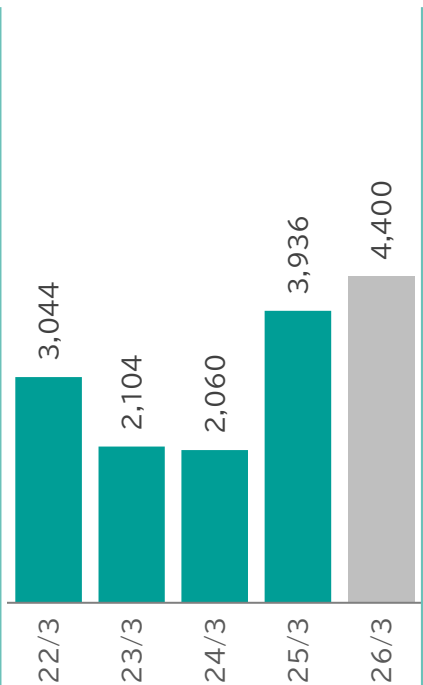
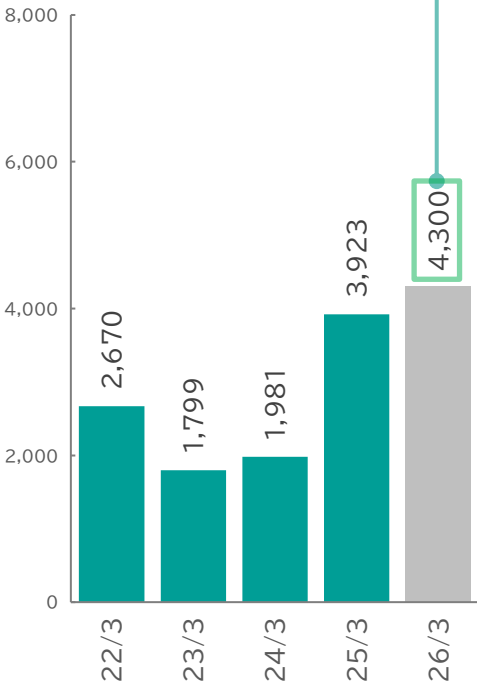
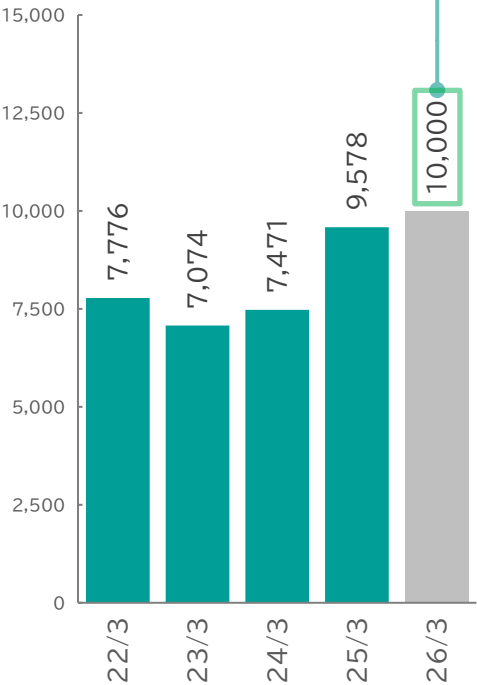


# 1) 売上高・利益の推移

過去最高の売上高を見込む



前中計の各期間を超えるEBITDA・営業利益を見込む



(金額単位:百万円)

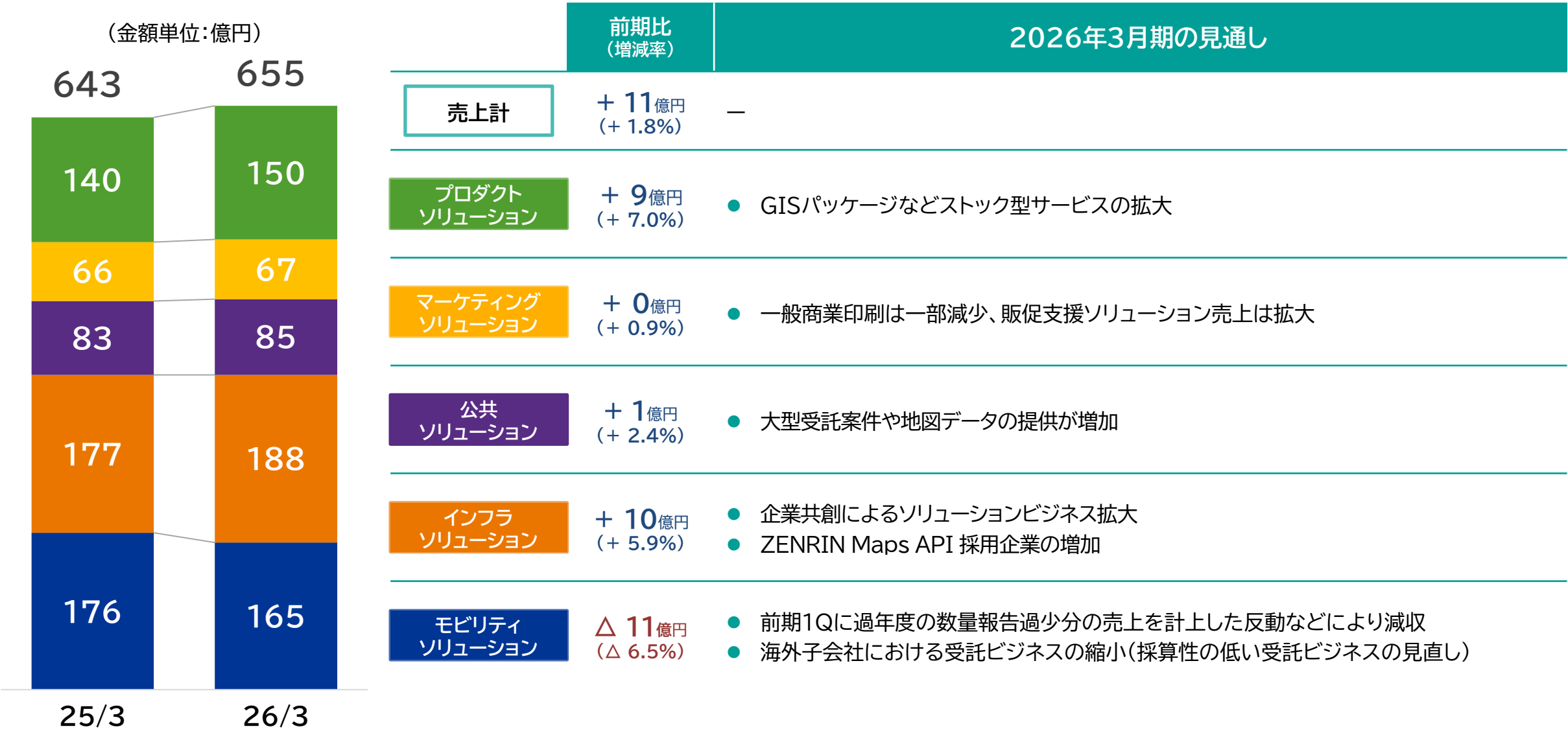
|              | 売上高                    | EBITDA               | 営業利益                 | 経常利益                  | 親会社株主に帰属する<br>当期純利益   |
|--------------|------------------------|----------------------|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 前期比<br>(増減率) | + 1,136百万円<br>(+ 1.8%) | + 421百万円<br>(+ 4.4%) | + 376百万円<br>(+ 9.6%) | + 463百万円<br>(+ 11.8%) | + 393百万円<br>(+ 15.1%) |

3期連続 増収

3期連続 増益

2期連続 増益

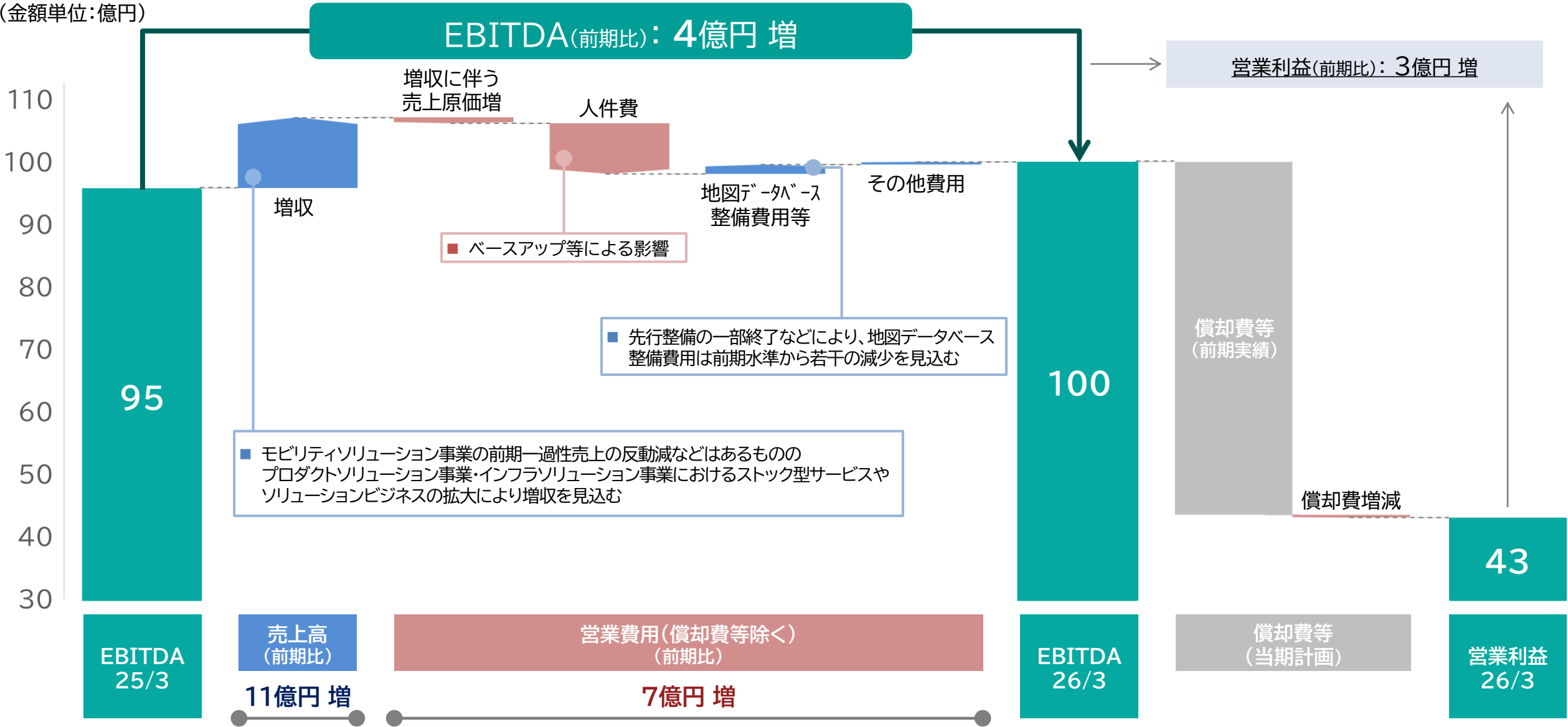
## 2) 事業別売上高の増減



※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

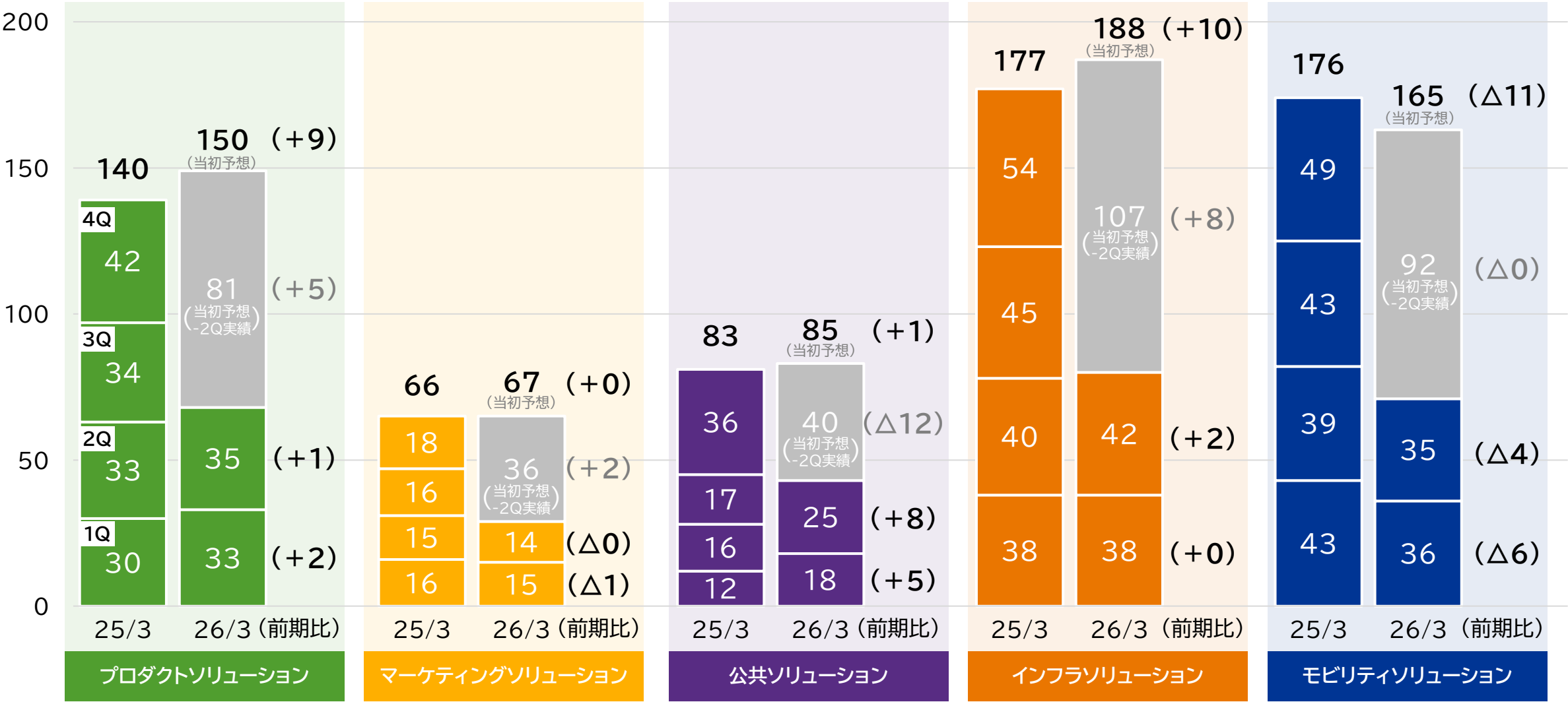
### 3) EBITDA・営業利益の増減【売上高・費用内訳】

(金額単位:億円)



# 4) 事業別売上高の四半期別推移

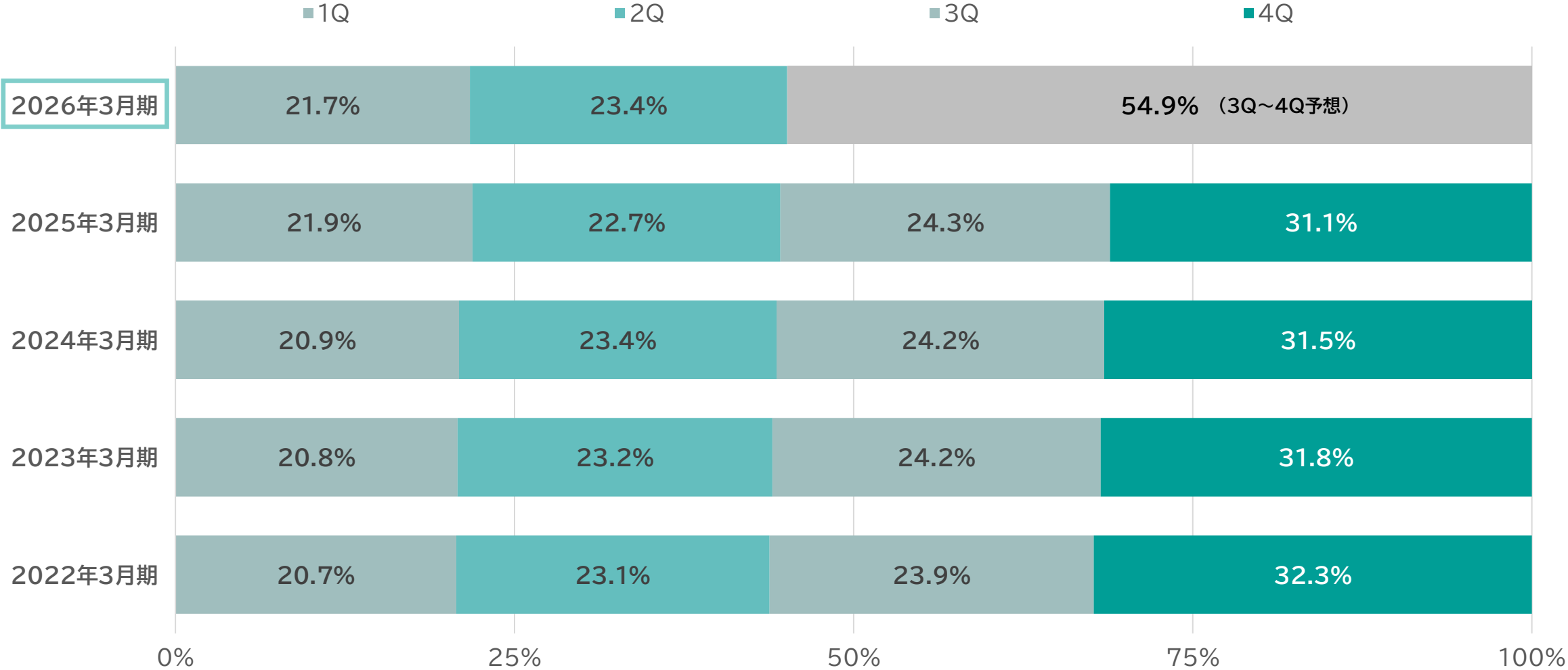
(金額単位:億円)



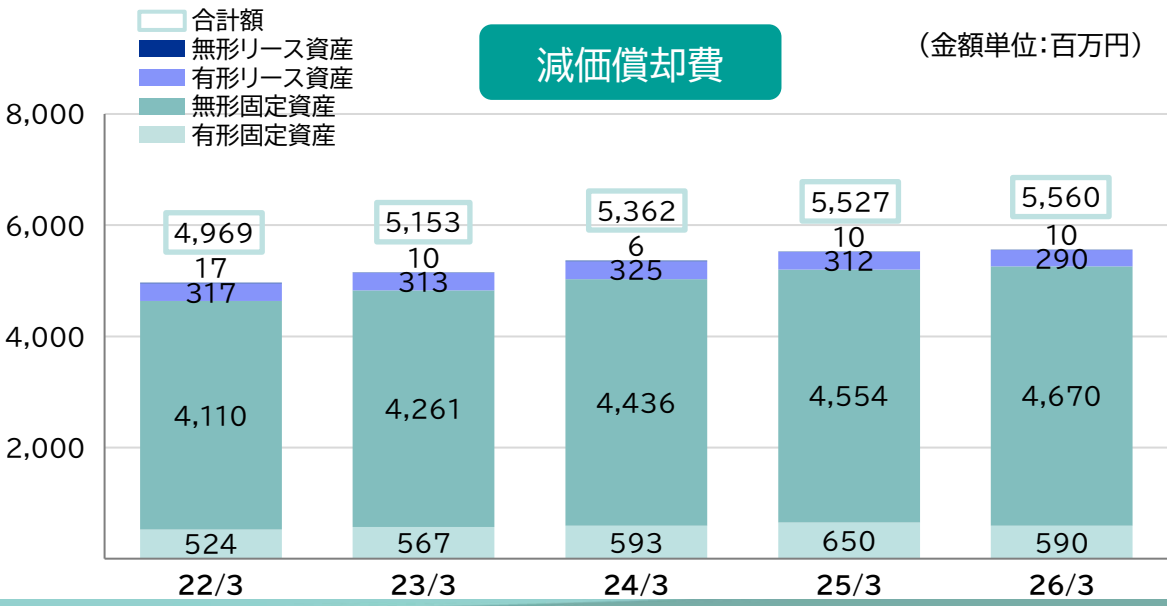
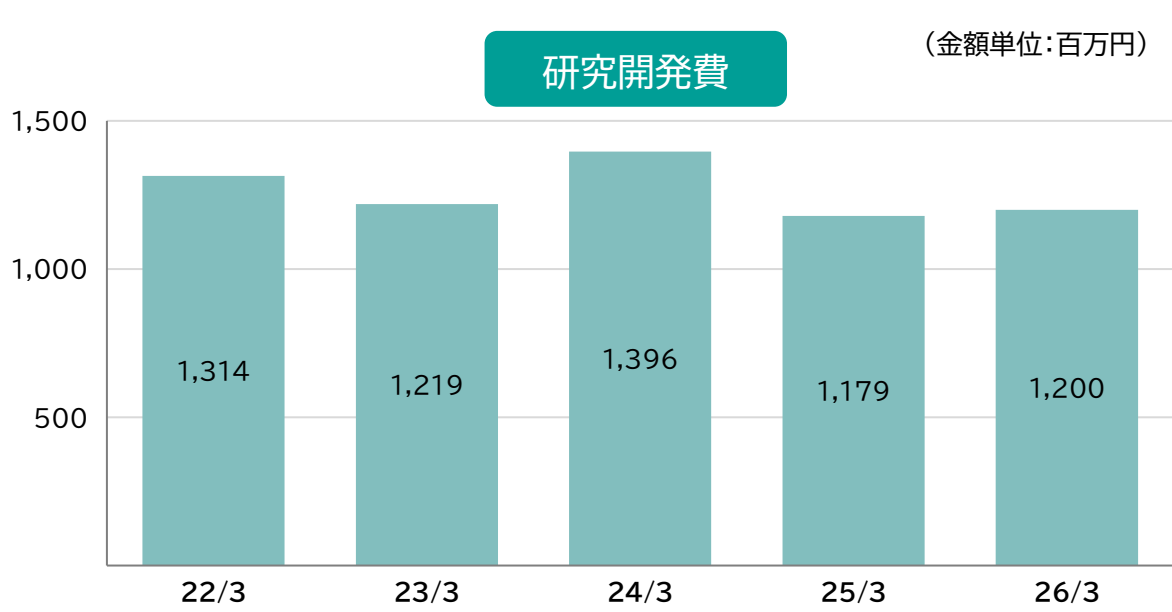
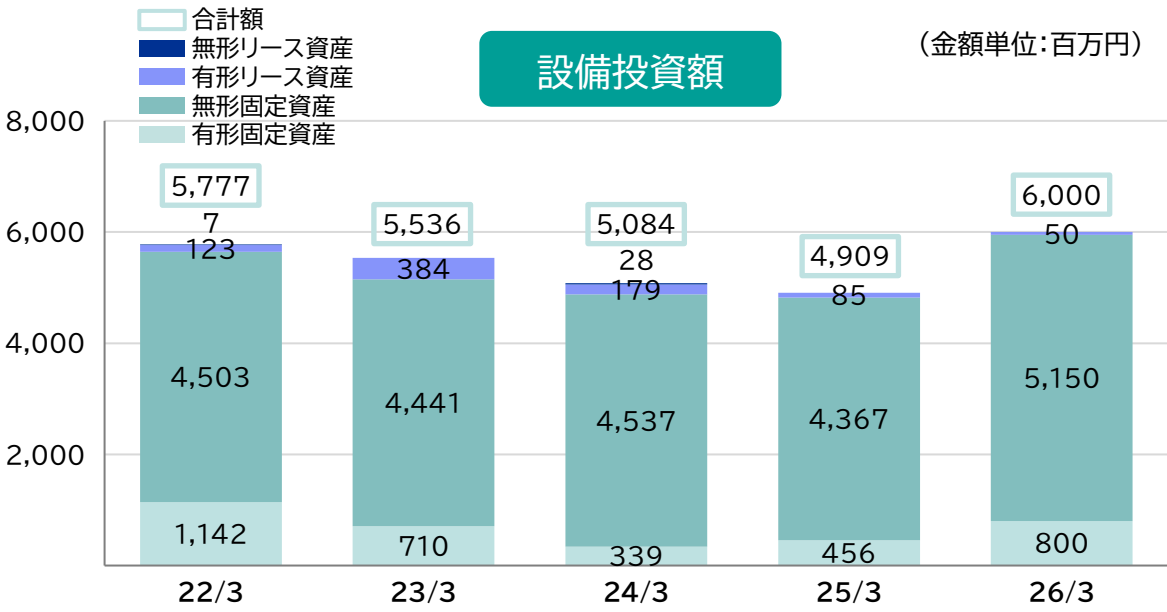
※ 25年3月期の数値は、中長期経営計画(ZGP2030)の事業区分に組み替えて表示しております。

## 5) 四半期売上高構成比率の推移

従来より当社グループの売上高は季節的変動が著しく、年度末に売上が集中する傾向



# 6) 設備投資額・減価償却費・研究開発費



# ZENRIN

## Maps to the Future

株式会社ゼンリン <https://www.zenrin.co.jp>

IRお問い合わせ先 [zenrin-ir@zenrin.co.jp](mailto:zenrin-ir@zenrin.co.jp)

会社説明資料 [https://www.zenrin.co.jp/ir/pdf/corporate\\_profile.pdf](https://www.zenrin.co.jp/ir/pdf/corporate_profile.pdf)